



# 内定率の陰に潜む離職率

高卒、大卒の採用内定率は近年向上し、2022年秋9月時点の高卒採用内定者は62・4%、大卒90・8%で過去最高水準と報道されています。

ただ、就職してもその後の現状は厳しく、私の子どもが在学していた高校の就職説明会の資料には次のような言葉が列挙されていました（原文のまま、数値は当時のもの）。

～高校新卒就業者の3年以内離職率は40・8%（厚生労働省調べ）※大卒者の3年以内離職率は32・2%。理由として、「たとえ若くとも、高卒という学歴の壁により転職活動が難しく、フリーターもしくは非正規になる」、「進学した友人など周りが楽しそうなのに対し、自分（たち）はそうでないから」、キープ

ードは「自分に合わない」。▼20代正規雇用者の平均年収は384万円、20代非正規雇用者の平均年収は264万円、▼生涯年収の差は単純計算で9000万円以上とも…。▼非正規の収入で結婚や子育ての費用を捻出することは容易ではない、▼派遣社員をはじめ、製造業、販売員の募集は事実上30代が上限、▼早々と社会保障のお世話になる可能性も…。

資料の最後には、「正規・非正規の違いは能力ではない！という現実」と書かれていました。正規か非正規か、フルタイムか短時間労働かなどは、本来働く人の希望（家庭環境や生活実態に合わせた選択）でなされるべきものです。場当たりの「働き方改革」や「同一労働同一賃金」などの法改正もされましたが、早期離職者の割合には変動がなく多くの職場では依然として働き続けることが困難なままです。

労働大学企画編集委員 細田 博樹